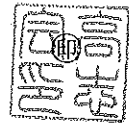


様式第2号 (第3条関係)

平成29年7月28日

篠山市議会議長 様

会派名 高 志 会
代表者名 木 戸 貞 一
又は会派無所属議員の氏名



政務活動報告書

この度の政務活動を下記のとおり報告します。

記

1. 活動の種類: 視察調査 ・ 研修 ・ 広報広聴活動
その他 ()
2. 活動期間: 平成29年7月25日 (火)
3. 場 所: 鳥取県 鳥取県福祉保健部
4. 活動者: 木戸貞一・恒田正美 2名
5. 活動の概要: 別紙
6. 考 察: 別紙
7. 活動に要した費用:

| 費目 | 詳細 | 金額 | 備考 |
|------|------|-------|--------|
| 調査旅費 | 燃料代 | 1,725 | 別紙参照 |
| | 通行料金 | 620 | 遠阪トンネル |
| | | | |

○燃料代

278.8 km (往) ÷ 燃費 21 km/ℓ = 13.27ℓ

13.27ℓ × 130 円 = 1,725 円

車種：日産ノート

「在宅育児支援」に係る調査報告書

日 程：平成29年7月25日（火）

場 所：鳥取県庁

出席者：鳥取県子育て応援課 課長補佐 稲村潤一、同課 係長 前田裕二、恒田正美、
木戸貞一

■調査の目的

子育て施策は、篠山市の重要施策のひとつである。こども園の整備を進めている篠山市では、議会でも保育士の待遇改善、保育士不足の解消を求めているが、待機児童が出ている状況となっている。年間出生数は横ばいであるが、低年齢児を保育園へ預ける家庭が増えており、結果、保育士不足となっている。特に、定住促進重点地区においては保育料に補助金を出しており、より保育園へ預けやすい状況を生み出している。高志会では、これらより保育園へ預けやすい施策は、小さい間は家で子どもを育てたいという思いを持つ親をも子どもを小さいときから保育園へ入れるという方向へ誘導することになっているのではないかと考えている。

そこで、市長、教育長へ、在宅育児に対しても何らかの支援をすべきではないかと議会で質問したが、理解できないと一蹴された。

こういった流れの中、鳥取県が平成29年度から在宅育児の家庭へ支援をはじめたとの情報を知った。

今回、鳥取県の在宅育児支援の概要、制度導入の経緯を調査し、本市にも必要な施策と思われる在宅育児支援についての一考察とすることを目的とする。

■調査の内容

- ・鳥取県庁で聞き取りを行った。（別添資料参照）

■考察

鳥取県は、平成22年に子育て王国を宣言されており、様々な子育て施策を積極的に展開されている。合計特殊出生率も全国平均よりも高く、ここ数年は全国平均より0.15高い1.60以上を維持しており、施策もその効果も先進的である。

そんな同県では、これまで安心して子育てが出来るように、保育サービスの拡充、子育て世代の経済的負担の軽減を行ってきたが、特に、保育所に預けやすい環境を整えたことにより、本当は家庭で子育てしたいと思っている保護者の選択肢を狭めている

のではないかという課題に直面したとのことであった。

そこで考えられたのが、在宅育児支援であった。これは1歳までの在宅育児に対して月額3万円を支援するというものであり、とても厚い支援となっている。考えていること、課題と感じていることは同じであったので、自分たちの方向性は間違いではないと思える視察であった。

特に今回の調査で感じたことを以下に記す。

- ・在宅育児支援を先行的に実施していた自治体では待機児童が1割程度減少したという報告があり、篠山市の課題でもある低年齢児の保育園入園による保育士不足の解消にもなる。(篠山市の保育士不足の原因は低年齢児の保育にある)
- ・在宅育児支援は、県が事業の半額を負担するもので、各市町の裁量により支援の内容は様々となっている。特に、少子化に悩む自治体ほど積極的に制度を活用しており、反対に、人口の多い市では費用がかさむことから導入については様子を見ていることがわかった。
- ・今年度からの制度創設であるが、すでにアンケート調査から、保育入所を遅らせた家庭がある事、制度を求めて住所変更した家庭があることがわかっており、制度の効果は大きい。
- ・他府県からの問い合わせもあり、注目度の高い制度である。
- ・保育入所というサービスを受けない家庭に支援することで、これまで支援を受けられなかった家庭への支援になり、支援の公平性という観点からも意味があると感じた。
- ・鳥取県では、在宅育児支援の他にも、男性従業員の育児、介護休業への支援や、子育てしやすい企業の数値化など、多様な施策が実施されており、本市も参考にしたいと感じた。

鳥取県では、20代が県外へ出ていき、そのまま帰ってこないという状況があり、これは本市とも似ており、先進的な考え方を持っている鳥取に学ぶことは多いと感じる。在宅育児の支援を含めて、子育て支援については、提言を受けてただ制度を導入するだけではその先の展開に拡がりがなく、移り変わる子育て世代のニーズをキャッチできないように思う。

鳥取県は、時間をかけて在宅育児支援に辿り着いたように感じ、さらに次の展開もすでに始まっている。これからの行政には、移り変わる子育て世代のニーズを的確にキャッチできる人材の育成とそれを理解できるリーダーが必要と感じた。

ご利用ありがとうございます。

利用証明書
兵庫県道路公社
遠阪トンネル

TEL 079-676-4055

17年 7月25日 車種 普通
通行料金 ￥310-
現金 ￥310-

本書は領収書です。

2013-L02-0003
料金所では一旦停止して下さい。